

(五) 太田米吉 — 教育による村づくり

太田米吉は、嘉永六年（一八五三年）に奈良本の農家に生まれました。十三歳で今の東京である江戸に出て住み込みで働きましたが、二十歳のとき病気になる奈良本に帰ってきました。このときに家の農業を手伝いながら、夜はお寺で一所懸命に勉強をしました。

米吉は勉強ができたことから、明治十年（一八七七年）に御殿場で小学校の先生になりました。先生になってからも勉強を続け、今の静岡大学教育学部にあたる静岡師範学校に入學し、先生としての指導力を学び、高めました。そのため米吉がすばらしい先生であることは、多くの人に知られるようになりました。

稲取村の初めての村長であった田村又吉は、この話をきいて米吉に稲取小学校で教育にあたってもらうことをお願いしました。こうして明治二十五年（一八九二年）に校長として稲取小学校に来ることになりました。

稲取小学校の校長となった米吉は、子供たちの教育に一所懸命に取り組みました。また、人を育てることは、小学校だけでは十分ではないと考えて、又吉などと力を合わせて、人のための社会教育や家庭教育の勉強会を開くなど学校以外の教育にも取り組みました。毎月の勉強会には必ず出て、米吉のすばらしい話にみんな感心したといわれています。米吉は校長を辞めた後、大正七年（一九一八年）に亡くなりました。



福建視察団集合写真より抜粋